

ノロウイルス対策と感染管理ベストプラクティス ～衛生教育、衛生意識の“改革”にATP 検査が効果を発揮～



医療編

防衛医科大学校 防衛医学研究センター
感染症疫学対策研究官 教授

加來 浩器 氏

「見えない汚れ」を「見える化」することは、衛生意識の向上を図る上で効果的である。手洗い教育でいえば、従来から手型スタンプを使った培養検査や、ローションを塗った手指にブラックライトを当てる方法などが用いられてきた。防衛医科大学校では現在、ATP ふき取り検査を取り入れた衛生教育に着目している。加來氏は「ATP 検査は、検査結果がその場で 10 秒程度で、しかも数値で示されるため、衛生意識の改革に抜群の効果を発揮する。また、結果が数値化されるため、言語によるコミュニケーションがとりにくい海外でも効果を発揮する。そのため、院内感染対策の現場、海外での衛生教育の現場、国際緊急援助の現場など、さまざまな場面で活用している」と語る。

本講演録では、感染管理における ATP 検査の活用事例のほか、HACCP の考え方を応用した「感染制御ベストプラクティス」の考え方、ノロウイルスをはじめとする感染制御の考え方やポイントなどが解説されている。